

事業の背景・概要

- 近年、市内におけるアライグマ等中型獣類の捕獲頭数が増加傾向。一方、その捕獲傾向を掴むことができず、捕獲業務において効率化がされていない部分があった。
- 市内でのアライグマの捕獲記録からその傾向を把握し、それをもとに市民と協働で捕獲強化を行う。さらに、評価検証をした後に研修資料として活用し、より地域に根ざした対策を実証する。
- この事業は、令和3年度に補助金を活用し、1～3月にかけてA地区にて実施した。

取組内容

○ 地域住民への事業の説明・罠の設置

- ①事業の説明を行うとともに、地域住民の目撃情報等を踏まえ罠の設置箇所（6箇所）を決定
- ②地域住民への錯誤捕獲時における罠の解除、セット方法の指導
- ③「①」にて決定した設置箇所へ設置



（罠の設置箇所の選定）



（罠の解除、セット方法の指導）



（罠の設置）

○ 事業の運用

- ①罠の見回りは、委託業者が週2回（火・金）、それ以外は、地域住民が実施（見回り結果は罠に掲示したQRコードを読み込み、特設ページにて報告）
- ②事業の進捗情報は回覧板にて随時共有
- ③捕獲報告のあった際は、委託業者と市職員が現場に向かい捕獲個体の処理
- ④実証終了後、地域住民への実証結果内容についての研修会を実施



（見回り方法の説明）



（研修会）



（研修会）

成果

○ 生態の把握による効果的な捕獲

- ・効果的な罠の種類^{※1}、エサの傾向^{※2}を把握

※1: 一般的な規格の箱罠での捕獲の際に、捕獲個体の体長が想定よりも大きく、罠を破損し逃走する事例が発生したため、大型の個体に対応した規格の箱罠が有効

※2: 様々なエサで捕獲の検証をしたところ、キャラメル風味やチキン風味のスナック菓子が有効

- ・効果的な捕獲の実施時期を把握

当該事業で捕獲できたのは、A地区から離れたB地区の河川沿いに設置した罠（A地区で捕獲できなかったため、設置箇所を変更）。

冬期は、A地区は、アライグマの水場となる河川が枯渇し標高が高いため、河川が潤沢で標高が低いB地区に季節移動していることが考えられる。このため、A地区では、農作物の収穫期の直前もしくは直後に集中して捕獲を実施することが効果的であることを把握できた。

○ 行政主導から地元主導への変化

- ・地域住民がアライグマの生態を理解し、被害防除に向けた環境整備等の対策を習得したことで、地元住民間で罠の設置箇所を検討・設置等の活動を進めるなど、行政主導から地元主導の自主的かつ継続的な活動に移行しつつある。

また、地域住民の動物に対する意識が高まり、アライグマに限らず、動物に対する情報提供が事業前よりも多く寄せられている。